

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

熊本大学大学院生命科学研究部消化器外科学での国内外科研修を終えて

奈良県立医科大学消化器・総合外科

寺井 太一

この度、当教室の庄 雅之教授のご推薦のもと、日本臨床外科学会の国内外科研修制度にご採択いただき、2022年8月29日から9月9日までの2週間、熊本大学大学院生命科学研究部消化器外科学教室にて研修させていただき貴重な機会を賜りましたので、ここにご報告申し上げます。

私は奈良県立医科大学消化器・総合外科学教室に入局後、関連病院での研修を行い、現在は本学の肝胆膵外科分野にて修練を積んでおります。また、2021年10月より大学院に入学し、膵癌に関する基礎研究も開始しておりました。今回の応募に際しては庄教授のご助言のもと、臨床、研究の両面において極めて実績が高く、アカデミックな教室である熊本大学大学院生命科学研究部消化器外科学での研修へ応募させていただきました。研修を受け入れ、指導してくださいました、馬場秀夫教授、教室員の皆様にご心より感謝申し上げます。

研修期間中、まず最初に驚いたことは、非常に緻密で凝集されたカンファレンスでした。カンファレンスはCOVID-19の蔓延のこともあり、全てzoomによるものでした。朝の当直報告に始まり、術後報告、術前検討など多くの内容を話されるのですが、常に過不足ない情報共有を行っておられました。馬場教授を中心に臓器横断的な知識で数々の症例に対して最高の治療選択を模索する姿勢を強く感じました。さらに、若手の先生へはエビデンスや臨床試験の結果等を質問され、常に最新の知識を持つことの大切さを指導されておりました。また、働き方改革に関しても積極的に取り組まれており、濃い内容であるが、簡潔で長時間にならないカンファを意識されていることが印象的でした。

もう1点、とても驚いたことですが、基礎研究への意識の高さです。スタッフの先生は基礎研究、国内外留学の経験が豊富な方が多く、熱心に後輩の先生の指導をされていました。週一回のリサーチカンファレンスは英語で開催されており、大学院の先生、海外からの留学生の研究を全員でさらに良いものにしようと取り組まれていました。施設に関しても医局の近くにある簡易な研究が行える研究室の他、高度な実験が行える臨床医学研究棟など、研究設備や実験助手の方の配備など非常に充実しておりました。加えて、大学病院敷地の道路を挟んで向かいにはIRCMS (International Research Center for Medical Science) といった施設があり、消化器外科の先生がPI (Principal Investigator) をされている研究室がありました。そこではさらに高度な研究を行っておられ、普通の基礎系の研究室とは異なり外科医と基礎研究の連携の敷居がとても低いように感じました。実際にカンファレンスに参加させていただき、PIの石本先生や学年の近い研究者の先生とお話しさせていただき、とても勉強になりました。

実際の診療に関して、私の専攻である肝胆膵領域を中心に勉強させていただきました。驚くことに毎日高難度手術があり、腹腔鏡下肝亜区域切除、開腹再肝切除術、開腹膵頭十二指腸切除術+門脈合併切除術、腹腔鏡下膵体尾部切除術、腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術、ロボット支援下膵頭十二指腸切除術と2週間の短期間であったにもかかわらず数多くの肝胆膵領域の最先端の手術を見学、助手として参加させていただきました。林先生を中心とする、熊本大学肝胆膵外科の先生方の手術手技、その他の治療との組み合わせる柔軟な姿勢や、癌に対する積極的なConversion手術、困難な症例に対しても大学病院として最大限の治療を提供するという姿勢を学びました。

今回の研修で臨床的な技術面はもちろんのこと、診療に対する姿勢や考え方、基礎研究の重要性など

幅広く勉強させていただきました。更には短期ではありますが、今回の留学で自分の見ている世界が広がることをとても実感し、他施設との交流が重要であると身をもって体験させていただきました。自施設での修練だけでは得られなかった経験であり、この経験を今後の診療に活かしていきたいと思います。熊本大学の先生方に変温かくご指導いただき、深く感謝しております。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えていただきました日本臨床外科学会の万代恭嗣会長、国内外科研修委員会の高山忠利委員長をはじめ、委員・スタッフの方々に心より御礼申し上げます。また、今回、研修応募の機会を与えていただき、推薦してくださいました庄教授をはじめ、快く研修に送り出してくださった当教室医局の先生方にもこの場を借りて感謝申し上げます。